

## 腹部・後腹部のポイント

### 1) 腹壁の筋(付着・神経支配・働き)を説明できる。

- 1 前腹筋(腹直筋・錐体筋)
- 2 側腹筋(外腹斜筋・内腹斜筋・腹横筋)
- 3 後腹筋(腰方形筋・大腰筋・小腰筋・腸骨筋)
- 3 腹直筋鞘を説明できる。
- 4 陰茎(核)ワナ靭帯を説明できる。
- 5 尿管の成り立ち、構造、通過する構造物を説明できる。

### 2) 腹腔と腹部臓器

#### (1) 壁側腹膜にできるヒダを発生と関連させて説明できる。

- 1 肝円索
- 2 正中臍ヒダ
- 3 内側臍ヒダ
- 4 外側臍ヒダ

#### (2) 腹膜腔

- 1 腹腔と腹膜腔の相違で理解できる。
- 2 自然状態での腹部臓器の位置を説明できる。
- 3 腹膜腔器官と後腹膜腔器官を説明できる。
- 4 腹膜の折れ返りと間膜を説明できる。  
肝鎌状間膜、小網、肝十二指腸間膜、胃脾間膜、大網、腸間膜、虫垂間膜、横行結腸間膜、S状結腸間膜、網嚢孔、網嚢
- 5 肝十二指腸間膜内を走行する構造物を説明できる。
- 6 間膜内を走行する脈管、リンパ管、神経系を説明できる。

#### (3) 腹部の脈管

- 1 腹部臓器に分布する脈管の走行を説明できる。
- 2 腹大動脈と消化管に分布する動脈を消化管の発生を加味して説明できる。
- 3 腹腔動脈の三大分枝とそれぞれの分枝の分布域を説明できる。  
左胃動脈、総肝動脈、脾動脈
- 4 上腸間膜動脈の分枝と分布領域が説明できる。  
下十二指腸動脈、空腸動脈、回腸動脈、回結腸動脈、右結腸動脈、中結腸動脈
- 5 下腸間膜動脈の分枝と分布領域が説明できる。  
左結腸動脈、S状結腸動脈、上直腸動脈
- 6 門脈の定義と肝門脈系を説明できる。

門脈の4主根静脈の形態が説明できる。

7 肝門脈系の側副循環路を門脈圧亢進時の臨床症状と関連させて説明できる。

#### (4)腹部の各臓器(中空性器官)

1 (食道を含めて)胃、小腸、大腸の各消化管の位置・特徴・相違を肉眼的、組織学的に説明できる。

2 胃の外景を解剖学的ならびにX線的に説明できる。

噴門、胃底、胃体、角切痕、幽門部(幽門洞・幽門管)、幽門、小弯、大弯

3 胃の筋層と内景を説明できる。

胃ヒダ、胃小窩、胃腺(固有胃腺・噴門腺・幽門腺)、幽門括約筋

4 十二指腸の位置と外景(上部・下行部・水平部・上後部)および十二指腸空腸曲、十二指腸提筋を説明できる。

5 十二指腸の内景を外景と関連させて説明できる。

十二指腸縦ヒダ、大十二指腸乳頭(オッデイの括約筋)、小十二指腸乳頭

6 十二指腸の上皮が陥凹して形成されたのが膵臓、肝臓、胆嚢であること、その排出口が大十二指腸乳頭(オッデイの括約筋)、小十二指腸乳頭であることを理解している。

7 空腸と回腸の位置と肉眼的相違を説明できる。

8 パイエル板と回盲弁を説明できる。

9 メッケル憩室を発生学的に説明でき、その出現部位と臨床的問題点を説明できる。

10 大腸の区分と位置、その形態的特徴を説明できる。

盲腸、虫垂、結腸(上行結腸・横行結腸・下行結腸・S状結腸)、直腸

11 大腸の肉眼的特徴を説明できる

結腸ヒモ、結腸膨起、結腸半月ヒダ、腹膜垂

12 盲腸の位置と虫垂の起始部を結腸ヒモと関連して説明できる。

#### (5)腹部の各臓器(実質性器官)

1 肝臓の位置をその発生と関連させて説明できる。

2 肝臓の外景を腹膜や間膜と関連させて説明できる。

無漿膜野、右葉(方形葉と尾状葉)、左葉、肝鎌状間膜、肝冠状間膜  
三角間膜、線維付属、肝十二指腸間膜、肝門

3 肝臓に遺残する胎児期の構造物を説明できる。

肝円索、静脈管索

4 肝門を出入りする構造物とその位置を説明できる。

5 肝十二指腸間膜内を走行する構造物を説明できる。

6 肝臓の形態学的二分線と機能的二分線を理解している。

7 肝門脈系と肝区域を関連させて説明できる。

8 肝臓後部の圧痕と周囲の臓器との位置関係が理解出来る。

- 9 肝内胆路と肝外胆路を肝臓の組織学的構築と肉眼的構築から説明できる。  
小葉間胆管、左右肝管、総肝管、胆嚢管、胆嚢、総胆管、大十二指腸乳頭
- 10 胆嚢の発生と位置を関連して説明できる。
- 11 胆嚢の外景を説明できる。  
胆嚢底、胆嚢体、胆嚢頸、胆嚢管、ラセンヒダ
- 12 総胆管の経路と排出口部位の構造を理解している。  
総胆管括約筋、胆膵管膨大部、胆膵管膨大部括約筋(Oddiの括約筋)
- 13 膵臓の発生と位置を関連して説明できる。
- 14 膵臓の外景を説明できる。  
膵頭、鈎状突起、膵切痕、膵体、膵尾
- 15 膵臓が外分泌腺と内分泌腺の機能を持っていることと膵尾に内分泌機能を持つランゲルハンス島が多いことを理解している。
- 16 膵管と副膵管を説明でき、且つ、その排出口を理解している。
- 17 膵臓が後腹膜器官であることと周辺臓器との位置関係を理解している。
- 18 脾臓の位置が胃脾間膜、脾腎ヒダを加味して説明できる。  
横隔面、臓側面
- 19 脾臓の形態(肉眼的・組織学的)と機能を関連づけて説明できる。  
被膜(線維膜)、脾柱、脾髄(白脾髄、赤脾髄)
- 20 脾門を出入りする構造物を理解している。  
脾動脈、脾静脈
- 6) 後腹膜器官(十二指腸と膵臓は既に記述済みなので除く)
- (1) 腎臓
- 1 腎臓が後腹膜臓器であることを理解し、その位置かゝ発生を加味して説明でき、且つ馬蹄腎、融合腎、骨盤腎などの代表的な破格があることを理解している。
- 2 腎臓が副腎と共通の脂肪被膜に包まれていることを説明できる。
- 3 腎臓と周辺臓器との位置関係を理解し、且つ、腎臓の外景を説明できる。
- 4 腎門の向きとここを出入りする構造物を説明できる。  
腎静脈、腎動脈、尿管
- 5 腎臓が皮質と髄質で構成されていることを理解し、この構造を肉眼的にも組織学的にも説明でき、且つ、各構造と機能を関連させて説明できる  
皮質と腎柱(腎小体がある)、腎錐体と腎乳頭(髄質)、  
腎葉(一つの腎錐体とその延長の皮質)、腎単位(腎小体と曲尿細管)
- 6 腎杯(腎杯の数は約14個)と腎盤について肉眼的および組織学的説明ができる。
- 7 腎臓のレニン、エリスロポイエチンなどの内分泌機能を説明できる。
- 8 尿管の肉眼的および組織学的構造と走行部位、ならびに狭窄部位を説明できる。
- (2) 副腎
- 1 副腎の位置、由来を知り、周辺臓器との位置関係を説明できる。

- 2 副腎が由来の異なる皮質(中胚葉)と髓質(外胚葉)で構成されていることを理解している。
- 3 副腎の肉眼的、組織学的形態を説明でき、且つ、それらと機能を関連して説明できる。
- 4 皮質は外側から球状帯、束状帯、網状帯の層配列をしており、球状帯から電解質代謝に関するホルモン(アルドステロン)、束状帯から糖代謝に関するホルモン(コルチゾール)、網状帯からは性ホルモン(アンドロゲン)をそれぞれ分泌することが説明できる。
- 5 髓質が交感神経性の細胞と髓質細胞(A細胞・NA細胞)から構成され、アドレナリン、ノルアドレナリンを分泌することを説明できる。
- 6 副腎に分布する脈管を説明できる。  
上副腎動脈(←下横隔動脈)、中副腎動脈(←腹大動脈)、  
下副腎動脈(←腎動脈)  
右副腎静脈(→下大静脈)、左副腎静脈(→左腎静脈)